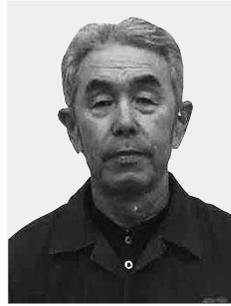


平成29年度

# 北上市技能功労者表彰

## 優れた技能で産業の発展に貢献

29年度北上市技能功労者表彰に、6人の皆さんが選ばれました。同表彰は、優れた技能をもって市の産業の発展に功労のあつた技能者をたたえるもので、今回で15回目。卓越技能功労賞は45歳以上で15年以上の実務経験者、青年卓越技能功労賞は25歳以上45歳未満で3年以上の実務経験者が対象となっています。



【建築大工】  
伊藤 和行さん  
(67歳・下江釣子)

**卓越技能功労賞**  
在来工法や宮造りの棟梁として、長きにわたり建築業務に従事。優れた技術と見識を兼ね備え周囲の模範となっている。古民家再生工事を多数手掛け、北上市景観賞を受賞した「石田邸」の再生工事では、かやぶき屋根に厚みと深みのある施工を実現した。



【半導体製品製造工】  
神保 邦正さん  
(47歳・奥州市)

**卓越技能功労賞**  
電装部品の修理・調整、治工具作製などに長きにわたり従事。特に装置改善に取り組み、装置稼働率の向上や故障率削減に大きく貢献している。ものづくりマイスターの認定を受け、社内の人材育成など、若年層への技術指導にも力を入れている。



【建築大工】  
武田 洋一さん  
(45歳・和賀町長沼)

### 卓越技能功労賞

建築設計や、建築現場の棟梁として業務に従事。増改築が難しい住宅が増える中、設計から建築までの全行程を熟知した数少ない技能者である。伝統的な上棟式などの建築祭事の伝承や、若手職人への指導などに積極的に取り組んでいる。



【建築板金工】  
小原 力さん  
(43歳・下江釣子)

**青年卓越技能功労賞**  
一級建築板金技能士の資格を有し、屋根工事、板金作業に従事。神社仏閣などの伝統ある建築物の屋根葺き替え工事に携わり、従来工法、伝統工法に精通している。岩手県板金組合北上市支部青年部長を務め、技能者の人材育成に取り組んでいる。



【旋盤工】  
及川 航さん  
(26歳・滑田)

### 青年卓越技能功労賞

高い精度が要求される化学分析装置などの医療機器の部品加工に従事。治工具作製や加工方法の改善に率先して取り組み、生産性の向上や品質の安定に貢献している。社内QCグループ活動のリーダーとして、社内  
の技能者育成に取り組んでいる。



【配管工】  
佐藤 啓輔さん  
(33歳・奥州市)

**青年卓越技能功労賞**  
給排水設備工事や、水道本管工事に従事。現場での施工方法や安全対策だけでなく、環境や近隣住民への配慮など、きめ細やかな管理能力が評価されている。また、職業訓練指導員(配管科)の免許を取得し、指導者としての役割も期待されている。

## 雑誌スポンサー通算5年の10社に感謝状を贈呈

市は、平成24年度から雑誌スポンサー制度を実施し現在、25社から27誌の協賛をいただいています。

この度、雑誌スポンサーとして通算5年協賛いただいた次の10社に感謝状を贈呈しました。感謝状は2日に中央図書館で開催された「読書のつどい」内で小原善則教育長が各社の代表者へ手渡しました。

- 北上都心開発株式会社(本通り)
- 北上ビルメン株式会社(幸町)
- 北上物産株式会社(大通り)
- 千田工業株式会社(九年橋)
- 有限会社トータルリフォームサービス(立花)

## 消防団協力事業所表示証を新たに交付

- 株式会社アベヤス(本通り)
- 株式会社有田屋(鍛冶町)
- 株式会社岩手銀行北上支店(本通り)
- 株式会社岩手ヤクルト工場(相去町)
- 北上信用金庫(本通り)

市は、複数の従業員が消防団員として入団している事業所や、災害時などに消防団に資機材を提供している事業所などに対し、北上市消防団協力事業所表示証を交付しています。このたび、11月13日付で次の事業所に同表示証を交付しました。

### ○北上市森林組合(川岸)

これまでに交付を受けた協

◎雑誌スポンサー制度：図書館に配架している閲覧用雑誌の購入費用を企業(スポンサー)に負担していただき、雑誌のカバーに企業名、裏面に広告を掲載しているもの

▼申し込み・問い合わせ：中央図書館 ☎ 63-33359

力事業所は25社となりました。認定の有効期間は、認定の日から2年。同表示証は事業所などに掲示されています。

▼申し込み・問い合わせ：消防防災課 ☎ 72-8305



各社の代表に感謝状を手渡す小原教育長



北上市森林組合の三浦啓一代表理事組合長(左)

## 私事ですが



この秋、次男と長女の結婚式が立て続けにあった。どちらも教会での式で、新婦入場では父親がエスコートし、バージンロードで新郎に引き継ぐ。友人からは、娘の結婚式ではことさら感慨深いものがあると思うよ、との教示。先に行われた次男の式で、ミスをしないうようによく見ておいたものの、一カ月後の娘の式にはすっかり忘れていた。

左手を軽く握ってみぞおちに、右手には白い手袋。娘をゆっくり、ゆっくりエスコートする。腕を組まれると少し気恥ずかしいが、悪い気はしない。バージンロードで待つ新郎への引き継ぎでは足をバタつかせない。式場の係から言われた通り動くのが精一杯で「感慨どころでは無かった」というのが正直なところである。

披露宴はどちらも本人たちの企画で、さまざまなサプライズが用意されていた。ウエディングケーキ入刀後に行われる新郎新婦によるケーキの食べさせ合いを両親にさせる、というサプライズには驚かされた。自分たちの披露宴でもやった事の無いパフォーマンスをまんまとさせられてしまった。もちろん、断れる空気で無かったが…。

フィナーレは新婦が両親への手紙を読んで涙を誘うものと思っていたが突然、新郎と新婦そっくりの子役が登場し、それぞれの記憶の底にあったシーンを演じ始める。親たちはもちろん、会場全体が驚き、子役たちの名演技に涙と笑いで盛り上がる。本当に今時の企画にはビックリだ。

次男も長女もそれぞれ伴侶と共に新しい人生のスタートを切った。親としてホッとしているものの、寂しい思いは全く無い。逆にチャリダーと釣りキチの家族が増えたよなもので、ますます楽しくなりそうである。